

山行報告書

作成: 2009年12月17日

愛知岳連 岡崎山岳会

山名[山域]	茶野・鈴ヶ岳・鈴北 [北鈴鹿]	目的[方法]	初冬を楽しむ(歩荷ト)
期間	2009年12月8日(火)	形態	日帰り縦走
参加人数	2人		

行動記録:

自宅(600)====豊田南 IC====桑名 IC====藤原 P(730,740)====コグルミ谷登山口====大君ヶ畑 P(815,825)---大君ヶ畑登山口(835)----茶野(1115,1200) -- サクラ峠--鈴ヶ岳(1315,1325)--鈴北岳(1400)---タテ谷經由---コグルミ谷登山口 P(1630,1640)====大君ヶ畑 P(1655,1700)====阿下喜温泉(1740,1840) ===食事===桑名 IC(1945)====自宅(2030)

概念図:



日誌: 晴れ

伊勢湾岸経由で桑名ICを降り、平日のいなべ市街地を抜け鈴鹿藤原 P で友人と合流。それぞれの車をコグルミ登山口手前にある路肩Pと30軒ほどの集落、大君ヶ畑バス停の前に路駐(数台可)。登山口を探しながらR306を戻ると左手に登山届箱があり山側の足跡ある道から茶野へと入る。

下草が刈ってある所を通り過ぎると溝道をジグザグと続く登山道は植林した杉に鹿除け用の濃淡紫色のビニールテープがグルグルと巻かれ薄暗く異様な雰囲気である。支尾根を直角に折れる鞍部で最初の休憩を取る。三国岳・烏帽子岳方面の視界が開けるが明瞭な尾根は短く、不明瞭な杉の木立に入ると次第に傾斜も増し、雪融けの湿った落葉や倒木、石がゴロゴロする間を滑らぬよう根や枝をつかみ登攀。歩荷と重登山靴で悪戦しているとやがて明瞭なカルスト地形の主尾根に乗る。冬靴下2枚でも靴擦れ寸前。余裕ある計画にしたが靴擦れは想定外で30分遅れ938mの茶野着となる。琵琶湖・霊山・伊吹山・鈴鹿の山々から真っ白な御岳・乗鞍・北アルプスなど360度の眺望や目指す鈴ヶ岳・鈴北岳・御池岳の鈴鹿最高峰も中々である。具沢山のちゃんぽん麺とスイートポテト&珈琲の温かい本日のスペシャルランチを取り元気回復。歩荷水を捨て13kg程のザックを担ぎ、鈴ヶ岳目指し歩くとサクラ峠から昨日降った2cmの新雪道となる。アップダウンを繰り返しながら鈴ヶ岳・鈴北岳まで来ると草原化した一帯が広く見渡せるが14時の吹風は冷たく、雪のないトリーネを見送り鞍掛峠分枝から少し下ったタテ谷樹林の中で休んだ。いよいよコグルミ谷出合いに向って急降下開始である。タテ谷は積雪5cmあり岩もある深く掘れた枯れ沢である。コグルミ谷へのトラバース道へ入る所に薄い赤ペンキの×しるしが3ヶ所あるがそのままタテ谷を下りぬよう注意したい。急斜面のトラバース道は最後まで気が抜けないが何故か深閑な谷に魅せられ1時間遅れで駐車地着となる。もう1台を回収して再び通過する頃にはすっかり暗くなっていた。

いつもの阿下喜温泉に立ち寄り、員弁街道沿いにある浅田屋のセットメニューは美味しく盛り沢山でお値打ちなのが嬉しい。

感想:

鈴鹿に詳しい友人と同行でき初冠雪の奥深い北鈴鹿を楽しむことができた。歩荷には少し厳しい山行でしたが不明瞭な核心部とタテ谷は留意して歩きよい訓練となりました。積雪期のR306は通行止めになりますが6度目は青のトリーネ巡りを果たしたいと願いつつ、花観賞・池巡りと季節・コースを変え幾度か訪れたいと思います。